

反撃能力に使用される主なミサイル

*画像は防衛省提供

米巡航ミサイル

「トマホーク」

約1600キロ

2026年度→
25年度に前倒し

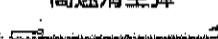
12式地対艦誘導弾



射程百数十
キロを1000キロ
程度に延伸

26年度(地上)
28年度(護衛艦)
30年度(戦闘機)

島しょ防衛用 高速滑空弾



早期装備型
数百キロ程度

26年度

能力向上型
2000キロ程度

30年代初頭

極超音速誘導弾



3000キロ程度

30年代前半

【シンジントン】浅井俊典】時間5日未明)、米シンジントン郊外の国防総省でオーブン

木原防衛相は4日(日本)

トマホーク 25年度導入

日米、1年前倒しで一致

スティン国防長官と会談した。西氏は、日本が導入を予定する米国製巡航ミサイル「トマホーク」について、調達を1年前倒しし、2025年度からとする方針で一致。他国領域のミサイル基地などを破壊する反撃能力(敵基地攻撃能力)の効果的な運用について議論を加速させることも確認した。西氏の対面協議は初めて。軍備拡大を図る中国や核・ミサイル開発を続ける北朝鮮などを念頭に、抑止力の強化を急ぐ狙いがある。木原氏は会談後、記者団に「より厳しい安全保障環境

を踏まえ、取り組みをむりに前倒しして実施する必要がある」と判断した」と説明した。

政府のこれまでの計画では、26、27年度にトマホークの最新型「プロック5」を最大400発購入する方針だった。このうちの半分を1世代前の「プロック4」に切り替えて、25~27年度にかけて「プロック4」最大200発、「プロック5」最大200発の計400発を購入する。

防衛省は、トマホークを海上自衛隊のイージス艦に搭載する方針。調達の前倒しにより、反撃能力の運用も一年早まる」とになる。トマホークの調達にあたっては、米議会の承認が必要となる。

17/6月26